

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	東邦ガス株式会社
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市熱田区桜田町19番18号
工場等の名称	東桜地域エネルギーセンター
工場等の所在地	名古屋市東区東桜一丁目1番10号
業種	電気・ガス・熱供給・水道業
業務部門における 建築物の主たる用途	工場
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	熱供給事業であり、複数の需要家へ冷房、暖房用の冷水、蒸気を供給している。
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月12日 ～ 令和6年10月10日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） 名古屋市東区東桜1-1-10 東桜地域エネルギーセンター
		ホームページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-962-5029（東桜地域エネルギーセンター）		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

基本方針

東邦ガスは、グループ各社とともに、地域および地球規模での環境保全の重要性を深く認識し、環境に関する社会課題の解決を通じて、持続可能な社会の実現に貢献します。

指針 1

お客さま先をはじめ社会全体における環境負荷低減に貢献します。

指針 2

事業活動における環境負荷を低減します。

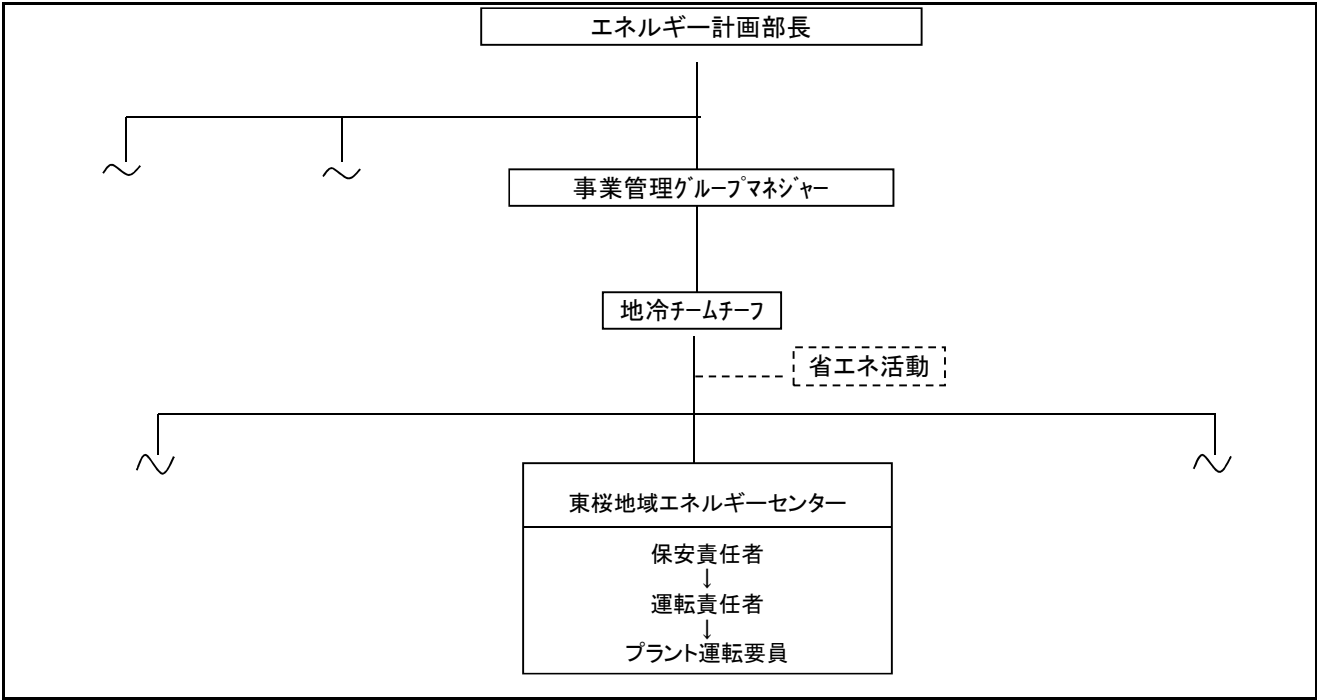
指針 3

地域・国際社会と協働し、環境貢献を推進します。

指針 4

環境に関する技術開発を推進します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,601	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素換排 算）出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	3,601	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂			t-CO ₂
削減率（対 基準年度）				%		%		%	%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%	%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度		
原単位あたりの 排 出 量	67.87	kg-CO ₂ / GJ	67.19	kg-CO ₂ / GJ	67.98	kg-CO ₂ / GJ	65.54	kg-CO ₂ / GJ	kg-CO ₂ / GJ
削減率（対 基準年度）			1.0	%	▲ 0.2	%	3.4	%	%
原単位あたりの みなし排出量						kg-CO ₂ / GJ		kg-CO ₂ / GJ	kg-CO ₂ / GJ
削減率（対 基準年度）						%		%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

熱供給先が増加（2023年5月15日供給開始）し、設備の稼働パターンの見直しが必要であったが、効率的な設備運用に努めた結果目標を達成できた。
備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の推進／OA機器	・昼休み時間、退社時等、パソコンを使用しない場合は、本体とモニターの電源を切る。	未使用時におけるモニター消灯（25W/台×2台）の確認を徹底し、電力削減を図る。	・昼休み時間や夜間勤務時、使用しないパソコンやモニターは極力電源を切り、電力削減に努めた。
省エネルギー・省資源の推進／照明機器	・使用していない中央監視室等の照明を切る。	不要な照明消灯を徹底し（32W/台×4台）完全実施。	・使用していない機械室の照明を切り、電力削減に努めた。
省エネルギー・省資源の推進／（点検及び運転管理の適正化）	・熱需要に応じた、きめ細かい設備運転管理（運用見直し等）を行う。	省エネルギー会議を月1回開催し運転管理状況を確認する。	・熱需要に応じた、きめ細かい設備運転管理（高効率機器を主に運用、販売量減少に伴う運用方法見直し等）を徹底し都市ガス、電力の削減に努めた。
廃棄物等の排出抑制	・両面印刷を推進し、紙の使用量を削減。	印刷物・コピーは、両面印刷を行う。	・裏面紙の利用によりコピー用紙を有効利用した。またオフィス古紙を分別回収しリサイクル化の徹底により資源の枯渇防止に努めた。
省エネWGの取組み	・省エネルギー・省資源の年間活動目標を定め、月1回開催する省エネルギー会議で活動報告や目標達成に向けての活動を行う。	基準年度（令和3年度）に対し効率を1%以上削減する。	（主な省エネWG取組実績） 給排気ファン更新時に設計を見直し、614.88kWh/年の電力を削減することができた

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・夏季・冬季の空調温度を定めて省エネルギーに努めた。 ・エネルギー管理を強化するため、運転日報で毎日のエネルギー原単位を確認して、毎月行う省エネルギー会議で報告した。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・上記活動を継続して行っている。
--